

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	兵庫県立大学	整理番号	F06
プログラム名称	フォトンサイエンスが拓く次世代ピコバイオロジー		
プログラム責任者	山崎 徹	プログラムコーディネーター	大隅 隆

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、「ピコバイオロジー」という新しい学問分野の創設を目指し、これを基軸としてグローバルリーダーを育成しようとする意欲的な構想の下にカリキュラムが設定され、近隣の理化学研究所等と連携して最先端の分析機器を活用するなど、他に類を見ない研究環境が整備されていることは評価できる。しかし、本プログラムは当該分野の各論的研究者を養成するに留まっていると見受けられ、グローバルリーダーとなる人材を育成するプログラムとしての構想と仕組みが現段階において十分に効果を現しているとは認め難い。また、基軸である「ピコバイオロジー」の学理に関する学内外での討議が不足しており、学会や社会での認知も不十分である。そのため、応募学生数減少への対応の観点も含め、本プログラムの理念をより緻密に構築するとともに、その普及に更なる努力が求められる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、（１）インターンシップ等を通じて視野が広がり、サイエンスコミュニケーターや大学以外の教員等を志望する学生が現れている点、（２）先端分析機器の実習を通じて幅広い手法や考えを得たことにより、研究を深化できた実感する学生や評価の高い学術雑誌に掲載される研究成果をあげる学生が育成されている点など、大学と公的研究機関との連携による最先端研究設備を活用した学位プログラムが形成されつつあることは期待できる。一方、グローバルリーダー育成への意識付けが不足しており、学生のリーダーシップ獲得やキャリアパス構築の仕組みづくりに更なる努力が求められる。

事業の定着・発展については、支援期間終了後に、（１）博士課程前期で修了することを可能とする点、（２）教育研究組織を再編し、生命理学研究科に「ピコバイオロジーコース」として継承することに加え、物質理学研究科に「フォトンサイエンスコース」を開設して工学系学生にも広く門戸を開く点、（３）一定の学生への経済的支援の予算措置が計画されている点は評価できる。今後、これらの体制の下で生命科学系と工学系の連携を発展させることにより、「ピコバイオロジー」の新展開が期待される。